

令和5年3月14日

## 3月の木材価格・需給動向

### 1. 国産材(北関東)

栃木県では原木生産、共販所への入荷とも順調であり、間伐材よりも皆伐材が多い。製材工場の原木引き取りは遅くなりつつある。スギ材は全体に値を下げている。3m柱材は15,000円/m<sup>3</sup>で前月から2,000円の下げとなった。ヒノキ材は3m柱材で20,000円台をなんとか維持している状況。ヒノキ小径木は高値安定で推移。

群馬県でも原木入荷は順調。製品の引き合いは首都圏、地場とも相変わらず少ない。土木用材の受注も一段落。見積は少しずつ出始めているが、例年に比べ少ない。製品在庫は全品目で通常の50%増。製品価格は米マツの下落に引きずられる形でスギ、ヒノキ製品は下落傾向にあるが、単価は下げられる状況ではない。

### 2. 米材

米国の製材品市況は北米製材工場の相次ぐ減産表明により1月上旬に反転したが、早くも2月上旬に反落に転じた。実需に力強さがない状況に変化はない。北米製材工場の多くが採算割れで、米国製材品価格は上にも下にも大きくは動き難い状態である。大雪等の冬場特有の伐採阻害要因は発生しておらず伐採は順調。港頭在庫は低水準ながら輸出向け船積みは順調である。米マツIS級並の3月積み対日輸出価格は前月比\$80下げの\$970/千SCRで決着した模様。一方、カナダBC州では立木価格が下落しているが、最も利益率の高かった米スギ製材品価格が大きく下落しているため、サプライヤーの採算は悪化し、伐採意欲が低下している。ランダムレンジス紙発表の15種平均価格(3/8)は\$415/M、2月頭に比べ0.7%の上昇。

1月原木入荷は188千m<sup>3</sup>と昨年同月の月平均並みである。出荷は171千m<sup>3</sup>となり、昨年同月の月平均より10%低い水準。在庫は増加し150千m<sup>3</sup>となり、在庫率は0.86ヵ月と1ヵ月を下回った状態が続いている。住宅着工(持家)の不調により製材需要が減退し国内挽き製材品への引き合いは低調である。欧州集成材の先物価格の下落に背中を押された形で米材製材の国内最大手が2/21に値下げを行った。東京木材埠頭の2月製品入荷は11千m<sup>3</sup>(前月比12.8%増)、出荷は12千m<sup>3</sup>(同2.7%減)、在庫は31千m<sup>3</sup>(同1.2%減)。契約数量が少ないため、希なサイズ、樹種の引き合いがある程度だが、代替樹種での対応が多

く新規契約への意欲は低い。

### 3. 南洋材

サラワク州では天候が回復したものの依然雨量が多い。今年の雨期は例年より長く3月には明けると予想される。2月のインド向けは3船(7.5万 $m^3$ )で荷物待ちの滞船はない。インド向け価格は\$10/ $m^3$ 程度の値上がり。PNG、ソロモンでは雨期が明けず、出材は低調。サバ州では原木輸出再開後の日本向け第1船は2月に出港した。3月予定の原木入荷は0千 $m^3$ 、出荷は2千 $m^3$ 、在庫8千 $m^3$ 。製材品入荷は27千 $m^3$ 。フリー板市場は依然悪い。インドネシアのメルクシ松フリー板の動きが活発になったかと思いきや直ぐに動きが止まった。

### 4. 北洋材

シベリア産地では徐々に暖かくなっており、伐採最盛期は終了したと見られる。日本からの引き合いは最近の円安傾向もあり再度鈍化。中国市場も底打ちしたものの価格水準が低く、積極的な商売になっていない。産地側の採算は非常に厳しい。アカマツ原板の産地価格は下がる兆候はなく、今後伐採が減少するためオファーのあるものは手当てせざるを得ない状況。アカマツ完成品の荷動きは引き続き鈍く、円安もあり交渉は頓挫している。国内製材工場ではロシア製品を巡る風評や代替材の出現による需要減少に苦しんでいる。DIY/一般ルートとも荷動きは鈍いものの若干回復基調にある。ただし下級品の荷動きは鈍い。1月の製品入荷(東京+川崎)は12千 $m^3$ と昨年11~12月の円高進行時に仕入れたものが入荷し増加、2、3月も多少増える模様。出荷は13千 $m^3$ で前月より回復したが依然低水準。在庫は54千 $m^3$ でやや減少。

### 5. 合板

合板メーカーは3月も減産を継続する。国産原木の受入制限によって仕入価格を維持する姿勢を表明している。原料確保には山元への適正利益の還元が不可欠との考えである。

1月の国内合板生産量は19.6万 $m^3$ 、うち針葉樹合板は19.1万 $m^3$ 、出荷量は18.7万 $m^3$ で在庫量は16.7万 $m^3$ 、うち構造用合板の在庫は14.7万 $m^3$ と前月より増加し、高水準が続いている。針葉樹合板は年明け以降、荷動きが回復せず価格は軟化している。メーカーは在庫を抑制することで先安感を払拭し、需給バランスと価格の安定化を図る構えである。輸入合板も低調な荷動きが続いており、構造用合板、塗装合板は毎週のように下落している。品目にかかわらず当面の入荷は低水準の見通しで、市況は全般に弱気で推移するもの

と見られる。1月の合板輸入量は18.1万 $\text{m}^3$ (前月比1.2万 $\text{m}^3$ 減)で、インドネシア以外の主要国からは微減しているが、中国産がピーク時より大幅に減少、針葉樹合板は3,349 $\text{m}^3$ (12mm換算16.7万枚)。産地の原木価格は合板需要の低迷で弱含みであるが、既に伐採コストを割っている業者が続出しており、新規伐採を停止している業者も多い。日本からの新規発注は低迷しているが、原木事情が悪化しているため、オファー価格がこれ以上ずると下がるとは考えにくい。

## 6. 構造用集成材

昨年度第4・四半期契約分のラミナが遅れもなく順調に入港し始めている。昨年のラミナの過剰在庫問題も徐々に改善の兆しを見せており、夏頃には適正水準になる見通しである。今年第1・四半期契約は $\text{m}^3$ 当たり€280程度であるが、第2・四半期契約は現地の暖冬による若干の需要増や電気料金等のコスト増で価格アップが予想されている。2月時点のラミナ入港価格は53,000円/ $\text{m}^3$ 程度。高価格帯のラミナ消費は進んでいるものの、80,000/ $\text{m}^3$ 程度の輸入集成材の入港が始まっており、3月も価格は下げ基調が予想される。

## 7. 木材チップ(東海)

チップ原木は製紙・バイオマス用とも引き合いは強く、慢性的に原木不足感が強い。解体材は発生、入荷ともに良くないが、大型定期修理の時期で集荷は落ち着いている。夏場以降の集荷に各社警戒感が強い。製紙用は春先から夏場にかけて大手製紙会社の大型定期修理があり、消費量は減少の見込み。燃料用は例年大幅な余剰感が出る時期だが今年はそれほどではない。在庫は多くないが、若干の積み増しも見られる。

## 8. 市売問屋

天候に恵まれているが、荷動きがない。細かい注文が多く土木関係もあまり動かない。国産材、外材構造材とも不足材がない。外材が高すぎるためスギ造作材が動いている。WW、米マツ、アカマツ製品は値下がりしており、相場は下げ傾向にある。製材工場には製品が貯まっており、売れなくなっている。

## 9. 小売

都心部では2月も低調な動きである。在庫を消化するために販売店の当用買い姿勢が目立つ。国産材製品は仕事が少ない中で販売競争が激化しているため、ヒノキ柱・土台、スギ柱・桁等が値下がりしている。外材製品も1月の販売が予想以上に悪く、過剰在庫は減っていない。競合製品の価格動向も加わり、WW集成管柱、RW集成平角ともに値下がりしている。決算シーズンを控えており、さらなる値崩れが懸念される。国産材造作材の供給量が降雪や生産コスト上昇で少なくなっているが、仕事が小口主体のため量が動かない。

参考資料

(一財)日本木材総合情報センター

令和5年3月13日

1. 主要外材入出荷在庫量

		入荷量	出荷量	在庫量
米材	丸太	→	→	→
	製材品	→	→	→
北洋材	丸太	輸出禁止	*	*
	製材品	→	→	→
南洋材	丸太	↘	↘	→
	製材品	→		

矢印の表示は今月に対する翌月の動向を、下記のように示したものである。

- ↑ 急増・急上昇
- ↗ 増加・上昇
- 横ばい
- ↘ 減少・低下
- ↓ 急減・急落

注) 北洋製材品は東京・川崎

2. 合板供給量

国内製造量	輸入量		
	計	インドネシア	マレーシア
↘	↘	↗	↘

3. 価格動向

樹材種	形状	取引条件	樹種・寸法等	動向
国産材	丸太	卸売価格 (北関東、県内産 市場土場渡し)	スギ柱材 (3m) 2等	↘
			スギ中丸太 (3.65m) 2等	↘
			ヒノキ柱材 (3m) 2等	↘
			ヒノキ中丸太 (4m) 2等	↘
	製材品 (関東近県産 板は東北産)	首都圏・市売り 価格	スギ柱角 (KD) 10.5×10.5×3m 特等	→
			スギ柱角 (KD) 12.0×12.0×3m 特等	→
			スギ間柱 (KD) 10.5×3.0×3m 特等	→
			スギ加工板 1.3×18.0×3.65m 特等	→
			スギタルキ 3.0×4.0×3.65m	→
			ヒノキ柱角 (KD) 10.5×10.5×3m 特等	→
ヒノキ柱角 (KD) 12.0×12.0×3m 特等	→			
ヒノキ土台角 12.0×12.0×4m 特等	→			
米材	丸太	産地価格	米マツ ISタイプ	↘
		国内卸売価格 (京浜・オントラ)	米マツ ISタイプ コースト	↘
	製材品 (カナダ産・ 現地挽き) (国内挽き)	東京・問屋店頭 渡し価格	米ツガ桁角 (KD) Std&Btr S4S 10.5×10.5×4m	↘
			SPF 2×4 J-Grade R/L	↘
			米ヒバ土台角 (GR) Std&Btr 4・13/16'' 13'	↘
米マツ平角 (KD) 特等 10.5×24.0×4m	↘			
南洋材	丸太	産地価格	メランティレギュラー	→
		東京・水面筏 渡し価格	メランティレギュラー 60cm上、4m上 製材用 メランティレギュラー 60cm上、4m上 合板用	→
	製材品	産地価格	ホワイトセラヤ 平割 (サバ州産)	↗
		東京・問屋店頭 渡し価格	同上2.4cm×込み×4m 定尺1等	↗
北洋材	製材品	国内卸売価格 (京浜・オントラ)	アカマツ (KD) 30×40上級	→
		アカマツ (KD) 16×40上級	→	
欧州材	製材品 (現地挽き)	東京・問屋店頭 渡し価格	ホワイトウッド 間柱 3.0×10.5×3m S4S FOHC	↘
		ホワイトウッド ラミナ 2.4×11.0×3m上 ラフ乱尺	↘	
集成材	国産	東京・問屋店頭 渡し価格	ホワイトウッド 無化粧 JAS 5プライ	↘
		スギ 無化粧 JAS 5プライ	↘	
	欧州産	//	10.5×10.5×2.98m	↘
合板	国産	東京・問屋店頭 渡し価格	タイプ2 F☆☆☆☆ 2.3mm厚 3×6	→
			タイプ2 F☆☆☆☆ 4.0mm厚 3×6	↘
			型枠 12.0mm厚 3×6	→
			針葉樹構造用 12.0mm 3×6 F☆☆☆☆	↘